

開催日：令和元年 11 月 30 日（土）

参加者：文化教育委員会 6 名

PTA 他 6 名 計 12 名

文化教育委員会のまち歩きを開催しました。修猷館のルーツ福岡藩校東学問所跡をスタートして古地図を手に唐津街道沿いの史跡を巡りながら現修猷館までガイドとともに散策しました。ガイドの唐津街道歴史研究所 有田和樹氏が分かりやすく説明してくれました。ゴール後は修猷資料館を見学しました。

【 福岡城跡外堀の石垣 】

地下鉄赤坂駅に集合して、まず「福岡城跡外堀の石垣」を見学しました。昭和 53 年の地下鉄工事のときに発見されたそうです。明治通り沿い城内の歩道の地下に保存され土日だけ公開されています。

【 東学問所跡 修猷館のルーツ 】



1784 年(天明 4 年)九代福岡藩主黒田斉隆の時代に学問所が東西に設けられ、東学問所は修猷館と呼ばれました。初代館長は貝原益軒の流れを汲む竹田定良でした。すぐ近くには西南学院発祥の地もあります。

【 福岡城跡 】

初代藩主黒田長政が築城し慶長 12 年（1607）に竣工しました。城内の「福岡城むかし探訪館」には福岡城の模型が展示してあり東学問所も想像で再現してあります。



【 金龍寺 】

唐人町商店街を抜けて鳥飼八幡宮や貝原益軒の墓がある金龍寺巡り唐津街道を進みます。貝原益軒は江戸時代の儒学者、本草学者で「養生訓」を著しました。



【 修猷館 】

今川から西新商店街を抜け修猷館に到着しました。修猷館の旧正門は福岡市登録文化財です。その横には昔の塀の煉瓦に「踐脩猷館(せんしゅうけつゆう)」とレーザーで文字を書いたものが埋め込んであります。煉瓦塀改修の際に新しい塀の中に 1 枚だけ埋め込んだそうです。修猷館の歴史についての資料が展示してある「修猷資料館」には 1964(S39)東京オリンピックで国立競技場に掲揚された五輪旗や聖火トーチや中野正剛、緒方竹虎の書など藩校であった東学問所時代からの歴史が展示してあり、年に数回一般公開されます。

文責：令和元年度 文化教育委員会委員長